
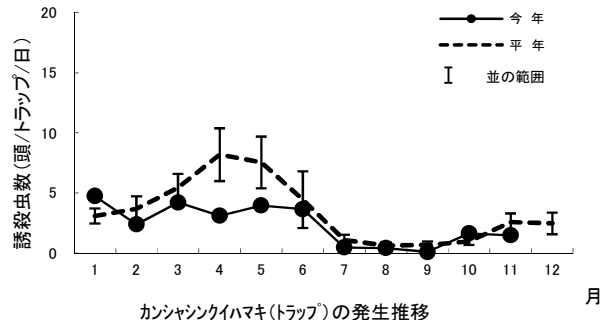
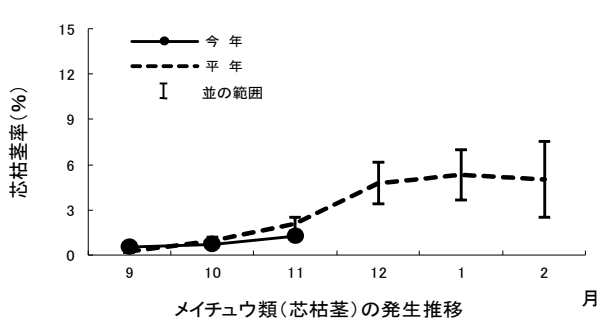


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
11月の発生量 (現況)	やや少		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

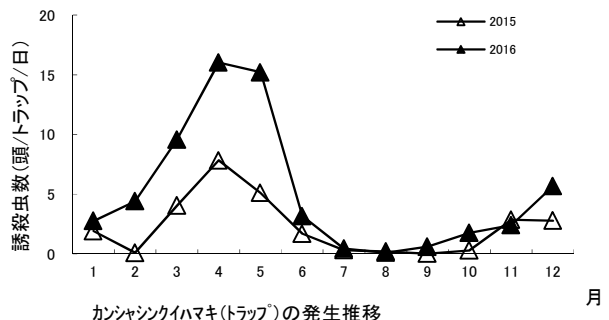
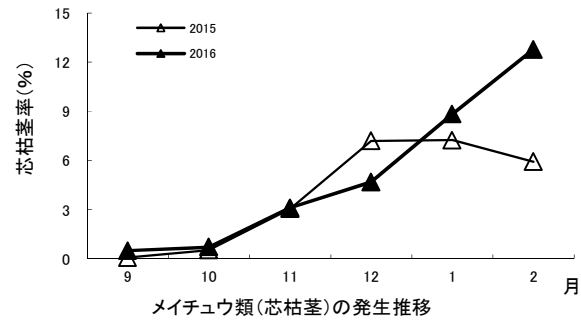
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は1.3% (前年3.1%、平年2.1%) と平年よりやや少なかった。また芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫に本種は含まれなかった。
- ・ 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.5頭 (前年2.4頭、平年2.6頭) と平年よりやや少なかった。

(今年のデータ)




メイチュウ類 (芯枯茎) の発生推移 (過去2年のデータ)



防除のポイント

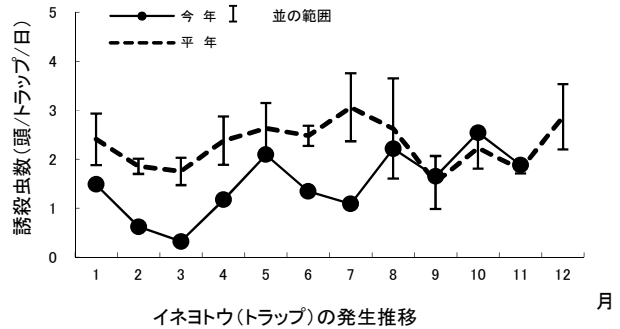
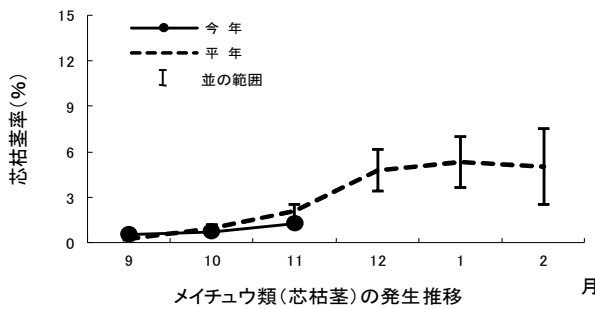
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

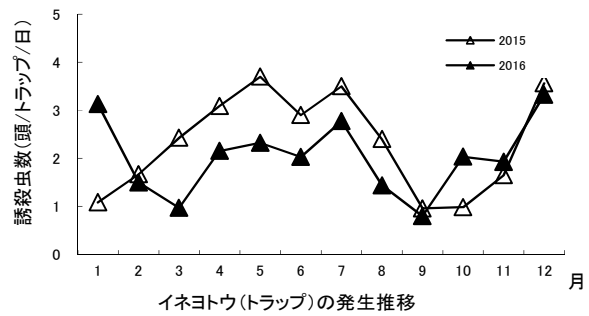
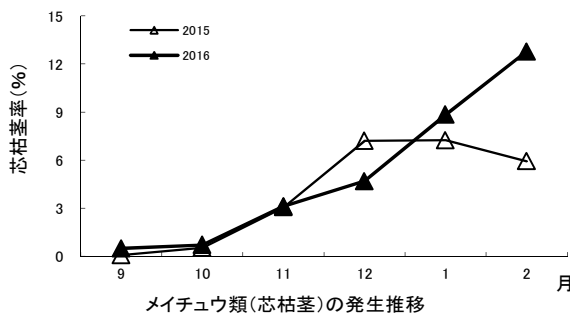
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は1.3% (前年3.1%、平年2.1%) と平年よりやや少なかった。また芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫は全て本種であった。
- ・ 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.9頭 (前年1.9頭、平年1.8頭) と平年よりやや多かった。
- ・ 与那国島及び波照間島におけるイネヨトウ合成性フェロモントラップによる誘殺数が増加傾向であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

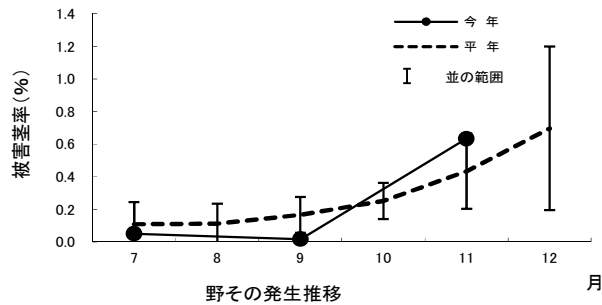
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間へ散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ 野そ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	被害茎率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

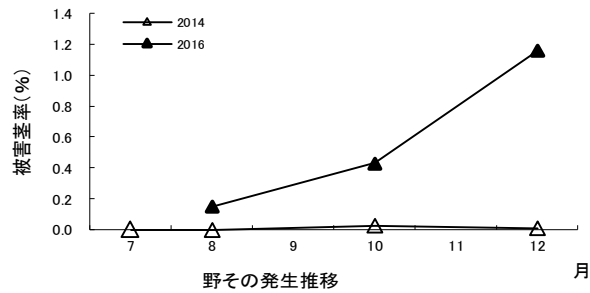
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、夏植ほ場における被害茎率は0.6%（平年0.4%）と平年並であった。
- ・ 防除員の報告によると、与那国島において野その被害が確認された。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・ 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。